



今日のトピック 米雇用統計で失業率は4.2%へと大きめに低下 雇用者数は21万人増もテーパリングは加速へ

ポイント1 雇用者数は21万人増 市場予想を下回る

- 米労働省が12月3日に発表した11月の雇用統計では、非農業部門雇用者数が前月から21万人増加し、55万人程度の増加を見込んでいた市場予想を下回りました。
- 業種別の内訳では、前月に経済再開を受けて大きめに増加した小売業で雇用が減少しました。

ポイント2 失業率は4.2%に低下 テーパリング加速へ

- 一方、失業率は4.6%から4.2%へと大きめに低下しました。
- 今回の雇用統計では雇用者数と失業率がまちまちの内容となっていますが、総じて雇用の回復持続が示されており、米連邦準備制度理事会（FRB）のパウエル議長が12月の米連邦公開市場委員会（FOMC）で検討すると述べている資産買入れ縮小（テーパリング）の加速と整合的な内容となっています。

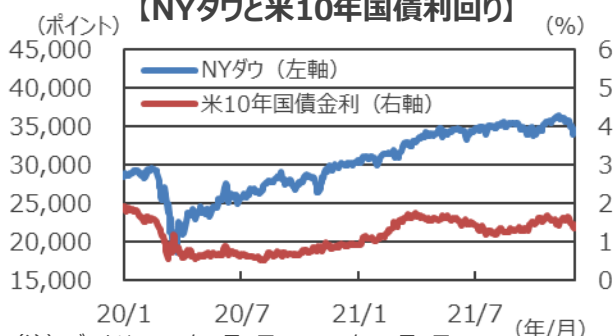
【非農業部門雇用者数と失業率】



(注) データは2020年1月～2021年11月。

(出所) Bloombergのデータを基に三井住友DSアセットマネジメント作成

【NYダウと米10年国債利回り】



(注) データは2020年1月1日～2021年12月3日。

(出所) Bloombergのデータを基に三井住友DSアセットマネジメント作成

今後の展開 オミクロン型がインフレに及ぼす影響に注目

- 3日の市場で米国株は下落しました。新型コロナウイルスのオミクロン型への懸念が残る中でも、パウエル議長が金融緩和縮小に前向きな姿勢を見せていることから、これまで大きく上昇していたハイテク関連銘柄を中心に弱い動きとなっています。
- 今後は市場がFRBによるテーパリング加速を織り込んだ後に、再度株式は上昇に向かうと見られます。リスクとしては、新型コロナウイルスの感染再拡大によって物流が滞るなどして、インフレがさらに加速することが挙げられます。そうした場合には景気が減速する中でもFRBによる利上げに関する議論が高まり、リスク資産に悪影響が及ぶ可能性があります。

ここも
チェック!

2021年12月 2日 原油高が米国のインフレに与える影響

2021年11月30日 「オミクロン」と米国株式市場 中期的な株価上昇期待は維持

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友DSアセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。